

**製品名: ムチン 16 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14240**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	

**抗原情報**

遺伝子名	MUC16
別名	MUC16; CA125; Mucin-16; MUC-16; Ovarian cancer-related tumor marker CA125; CA-125; Ovarian carcinoma antigen CA125
遺伝子 ID	94025.0
SwissProt ID	Q8WXI7
免疫原	抗血清はヒト MUC16 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 13311-13360

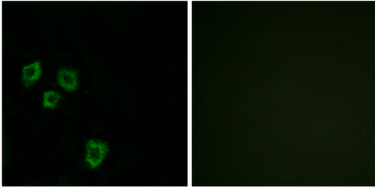
**背景**

ドメイン:3つのドメイン、すなわち Ser および Thr に富む N 末端ドメイン、156 アミノ酸 (アミノ酸番号 12061~21862) からなる

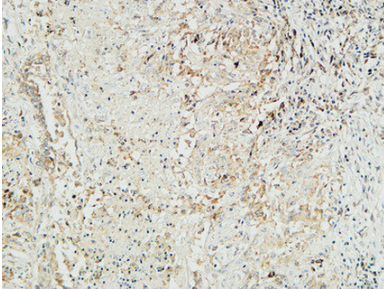
60以上の部分的に保存されたタンデムリピートを含む反復ドメイン、および短い細胞質テールを持つC末端膜貫通ドメインから構成される。機能:粘膜表面において、粒子や感染性因子に対する保護的かつ潤滑なバリアとして機能すると考えられている。誘導:卵巣癌細胞において発現が上昇する。その他:上皮性卵巣癌患者のモニタリングに広く用いられている血清検査の基礎となる抗原。ステージIの疾患に対する感度および特異性の欠如のため、早期卵巣癌の検出にはほとんど価値がない。一部の非悪性疾患においても同様に高値を示すため、集団スクリーニングに使用するには特異性が不十分です。多型性:反復配列の数は高度に多型性です。PTM:N型グリコシル化が高度で、主に高マンノース型および複雑な二分型N結合型グリカンを発現します。PTM:O型グリコシル化が高度で、タイプ1およびタイプ2のコアグリカンを発現します。PTM:リン酸化される可能性があります。細胞内C末端ドメインのリン酸化は、タンパク質分解による切断を引き起こし、細胞外ドメインを細胞外空間へ遊離させる可能性があります。PTM:多数のジスルフィド結合を含む可能性があります。分泌型の複数の分子は、鎖間ジスルフィド結合を介して会合し、細胞外空間または分泌管の内腔に非常に大きなゲル状マトリックスを形成する。類似性:14個のLRR(ロイシンリッチ)リピートを含む。類似性:2個のANKリピートを含む。類似性:56個のSEAドメインを含む。細胞内局在:細胞内C末端のリン酸化に続いて細胞外ドメインのタンパク質分解による切断と遊離が誘導され、細胞外空間に遊離する。サブユニット:MSLNに結合します。MSLNへの結合は異型細胞接着を媒介します。これは、MSLNへの結合を介して中皮上皮への細胞接着を開始し、卵巣癌の腹膜への転移に寄与する可能性があります。組織特異性:角膜および結膜上皮で発現します(タンパク質レベル)。正常卵巣組織および卵巣腺腫における発現と比較して、卵巣癌および卵巣低悪性度(LMP)腫瘍において過剰発現している。ドメイン:Ser、Thrに富むN末端ドメイン、156アミノ酸(アミノ酸番号12061~21862)からなる60以上の部分的に保存されたタンデムリピートを含む反復ドメイン、および短い細胞質テールを持つC末端膜貫通ドメインの3つのドメインから構成される。機能:粘膜表面で粒子や感染性物質に対する保護的、潤滑なバリアを提供すると考えられている。誘導:卵巣癌細胞でアップレギュレーションされている。その他:上皮性卵巣癌患者のモニタリングに広く使用されている血清アッセイの基礎となる抗原。ステージI疾患に対する感度および特異性の欠如のため、早期卵巣癌の検出にはほとんど価値がない。一部の非悪性疾患においても同様に高値を示すため、集団スクリーニングに使用するには特異性が不十分です。多型性:反復配列の数は高度に多型性です。PTM:N型グリコシル化が高度で、主に高マンノース型および複雑な二分型N結合型グリカンを発現します。PTM:O型グリコシル化が高度で、タイプ1およびタイプ2のコアグリカンを発現します。PTM:リン酸化される可能性があります。細胞内C末端ドメインのリン酸化は、タンパク質分解による切断を引き起こし、細胞外ドメインを細胞外空間へ遊離させる可能性があります。PTM:多数のジスルフィド結合を含む可能性があります。分泌型の複数の分子は、鎖間ジスルフィド結合を介して会合し、細胞外空間または分泌管の内腔に非常に大きなゲル状マトリックスを形成する。類似性:14個のLRR(ロイシンリッチ)リピートを含む。類似性:2個のANKリピートを含む。類似性:56個のSEAドメインを含む。細胞内局在:細胞内C末端のリン酸化に続いて細胞外ドメインのタンパク質分解による切断と遊離が誘導され、細胞外空間に遊離する。サブユニット:MSLNに結合します。MSLNへの結合は異型細胞接着を媒介します。これは、MSLNへの結合を介して中皮上皮への細胞接着を開始し、卵巣癌の腹膜転移に寄与する可能性がある。組織特異性:角膜上皮および結膜上皮(タンパク質レベル)で発現する。正常卵巣組織および卵巣腺腫における発現と比較して、卵巣癌および卵巣低悪性度(LMP)腫瘍で過剰発現する。

## 研究分野

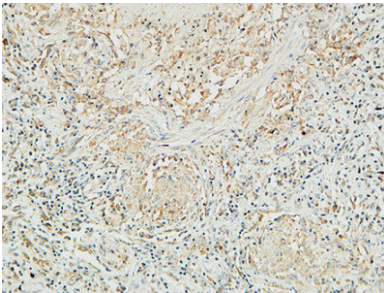
## 画像データ



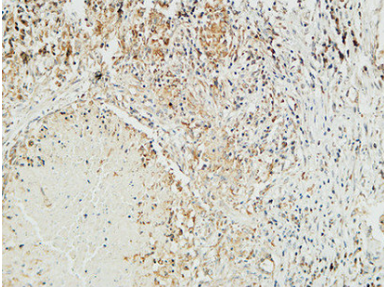
MUC16抗体を用いたHepG2細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



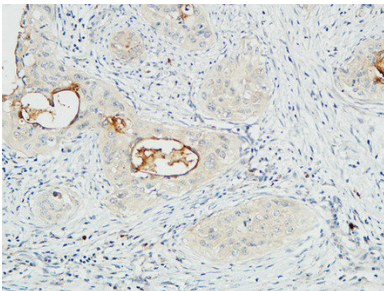
パラフィン包埋ヒト肺の免疫組織化学分析。1、抗体を1:100に希釈（4°、一晚）。2、高圧高温EDTA（pH8.0）を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を1:200に希釈（室温、30分）。



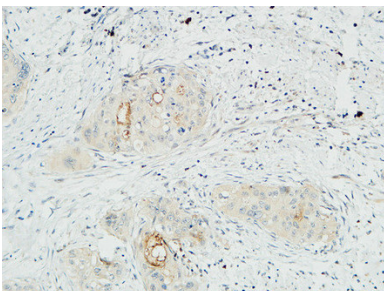
パラフィン包埋ヒト肺の免疫組織化学分析。1、抗体を1:100に希釈（4°、一晚）。2、高圧高温EDTA（pH8.0）を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を1:200に希釈（室温、30分）。



パラフィン包埋ヒト肺の免疫組織化学分析。1、抗体を1:100に希釈（4°、一晚）。2、高圧高温EDTA（pH8.0）を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を1:200に希釈（室温、30分）。



パラフィン包埋ヒト子宮頸癌の免疫組織化学分析。1、抗体を1:100に希釈した（4°、一晚）。2、抗原賦活化には高圧高温EDTA（pH8.0）を使用した。3、二次抗体を1:200に希釈した（室温、30分）。



パラフィン包埋ヒト子宮頸癌の免疫組織化学分析。1、抗体を1:100に希釈した（4°、一晚）。2、抗原賦活化には高圧高温EDTA（pH8.0）を使用した。3、二次抗体を1:200に希釈した（室温、30分）。

